

令和4年度

2学年 総合的な探究の時間「とち創生学」研究論文

《第2号》

I 発行に寄せて

- ・本別町教育委員会教育長 高橋哲也
- ・地域包括ケア研究所 藤井雅巳

II 研究論文

ページ

テーマ1「移住体験プロジェクト」	… p 1
テーマ2「本別産エシカル商品の開発」	… p 7
テーマ3「本別高校を活気のある高校にする」	… p 11
テーマ4「本別町を知るきっかけをつくる」	… p 17
テーマ5「本別町の人口減少を食い止めたい！」	… p 23
テーマ6「豆の町本別を有名にするプロジェクト」	… p 28
テーマ7「本別町のお店に観光客を増やすプロジェクト」	… p 34
(探究コーチ一覧)	… p 39

北海道本別高等学校

はじめに ～地域と共に歩む 本別高校～

総合的な探究の時間「とかち創生学」は3年目を迎えました。

令和4年度は前年のコーチミーティングの振り返りや反省をもとに、活動計画を練り直し取り組んで参りました。

主な変更点として、①生徒と探究コーチの活動を確保するため隔週2時間設定、②提案だけに留まらずに実践を可能な限り取り入れた上での提案、③前半の活動では変動コーチ制として多くのコーチと議論する中で多様な発想や考え方を習得、④コーチ人数の絞り込みと役割の明確化、⑤町から貸与されているタブレットを活用したコーチとの情報共有、⑥最終成果発表以外にも発表の機会の設定、⑦取組状況を踏まえながら年度途中の実施内容や計画の修正などです。常に活動の振り返りを行い、現状修正・改善→再計画→活動というサイクルで、この1年間取り組んできました。

本校の探究活動は、総合アドバイザーの藤井さん、町役場、町教育委員会、JA本別町などの多くの職員、地域の方々のご理解とご協力により支えられています。2年生の生徒は、苦労や困難を乗り越え一年間の活動をやり遂げました。この論文はその活動の様子や成果を記録した報告書です。多くの皆様から活動についてのご意見やご感想をいただければ幸いです。

令和5年度からは、より地域に密着した活動となるように地域から探究サポーターを募集し、多くの方々に活動に参加いただく取組も進めて参りますので、これからも皆様のご支援と温かい励ましをお願いいたします。

今年度、探究活動が新たな活動として教育課程外で行われました。3年生が、1年次に取り組んだ「豆を使ったスイーツ」に係る探究活動が課外活動、放課後SOYクラブとして展開されました。町内老舗菓子店 松月堂店主佐藤さんと地域おこし協力隊の南部さん、小池さんのご支援のもと、生徒4名が焼き菓子に挑戦し、「本高フィナンシェ」が商品化されました。

味、形、包装パッケージ、報道対応、販売など様々な活動に参加させてもらい、道の駅 ステラ★ほんべつ、藤丸デパートでの販売会は大盛況のうちに終了しました。

携わった生徒からは、「大人との対話・議論や多くの活動・実践は学びにつながる。積極的に活動することで、新たな視点を得ることができた。」と活動の成果を私に語ってくれました。

探究活動「とかち創生学」は、学校内の教育課程内に留まらず、地域の方々の力で学校外の活動へと広がりを見せるなど、地域に大切に育てられています。

なお、「本高フィナンシェ」は「カレーでナイト」に続き、今年度、本別町のふるさと納税返礼品として登録されました。

報告になりますが、本校の探究活動「とかち創生学」に係る地域との連携・協働した活動が高い評価を得られ、**令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰（本校教職員一同）を受賞しました。**

この受賞は、本別町、地域、保護者の皆様のご理解とご支援によるものであると同時に、生徒、卒業生、現・旧教職員が取り組んだ熱い想いの結晶です。

これからも、本別高校は地域の皆さんに支えられ、地域と共に歩む学校であり続けます。

令和5年3月吉日

北海道本別高等学校長 松田 素寛